

法令及び定款に基づくインターネット開示事項

第52期（平成29年8月1日～平成30年7月31日）

新株予約権等の状況
連結計算書類の連結注記表
計算書類の個別注記表

株式会社大盛工業

法令及び当社定款第24条の規定に基づき、当社ウェブサイトに掲載することにより、株主の皆様提供しているものであります。

新株予約権等の状況

① 当事業年度の末日において当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

イ. 平成25年10月25日開催の取締役会決議に基づき当社役員に交付した株式報酬型ストック・オプション（第4回新株予約権）

- ・新株予約権の数 946個
- ・新株予約権の目的となる株式の種類及び数
普通株式 9,460株（新株予約権1個につき10株）
- ・新株予約権の発行価額（払込金額）
1個当たり 4,300円（1株当たり430円）
- ・新株予約権の行使価額 1個当たり 100円（1株当たり10円）
- ・新株予約権の行使期間 平成25年11月19日から平成55年11月18日まで
- ・新株予約権の行使の条件 各新株予約権の一部行使はできないこととする。
- ・その他の条件については、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した株式報酬型ストック・オプション「第4回新株予約権」割当契約書に定めたところによる。
- ・当社役員の保有状況

	新株予約権の数	目的となる株式の種類及び数	保有者数
取締役 (監査等委員を除く)	798個	普通株式 7,980株	5名
取締役 (監査等委員)	148個	普通株式 1,480株	1名

(注) 監査等委員でない社外取締役の保有分はありません。

ロ. 平成26年10月29日開催の取締役会決議に基づき当社役員に交付した株式報酬型ストック・オプション（第6回新株予約権）

- ・新株予約権の数 2,752個
- ・新株予約権の目的となる株式の種類及び数
普通株式 27,520株（新株予約権1個につき10株）
- ・新株予約権の発行価額（払込金額）
1個当たり 3,300円（1株当たり330円）
- ・新株予約権の行使価額 1個当たり 100円（1株当たり10円）
- ・新株予約権の行使期間 平成26年11月21日から平成56年11月20日まで
- ・新株予約権の行使の条件 各新株予約権の一部行使はできないこととする。
- ・その他の条件については、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した株式報酬型ストック・オプション「第6回新株予約権」割当契約書に定めたところによる。

・当社役員の保有状況

	新株予約権の数	目的となる株式の種類及び数	保有者数
取締役 (監査等委員を除く)	2,530個	普通株式 25,300株	5名
取締役 (監査等委員)	222個	普通株式 2,220株	1名

(注) 監査等委員でない社外取締役の保有分はありません。

- ハ. 平成27年10月27日開催の取締役会決議に基づき当社役員に交付した株式報酬型ストック・オプション(第7回新株予約権)
- ・新株予約権の数 2,597個
 - ・新株予約権の目的となる株式の種類及び数
普通株式 25,970株(新株予約権1個につき10株)
 - ・新株予約権の発行価額(払込金額)
1個当たり 2,600円(1株当たり260円)
 - ・新株予約権の行使価額 1個当たり 100円(1株当たり10円)
 - ・新株予約権の行使期間 平成27年11月20日から平成57年11月19日まで
 - ・新株予約権の行使の条件 各新株予約権の一部行使はできないこととする。
 - ・その他の条件については、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した株式報酬型ストック・オプション「第7回新株予約権」割当契約書に定めたところによる。
 - ・当社役員の保有状況

	新株予約権の数	目的となる株式の種類及び数	保有者数
取締役 (監査等委員を除く)	2,294個	普通株式 22,940株	5名
取締役 (監査等委員)	303個	普通株式 3,030株	1名

(注) 監査等委員でない社外取締役の保有分はありません。

- ニ. 平成29年10月27日開催の取締役会決議に基づき当社役員に交付した株式報酬型ストック・オプション(第8回新株予約権)
- ・新株予約権の数 473個
 - ・新株予約権の目的となる株式の種類及び数
普通株式 47,300株(新株予約権1個につき100株)
 - ・新株予約権の発行価額(払込金額)
1個当たり 21,300円(1株当たり213円)
 - ・新株予約権の行使価額 1個当たり 100円(1株当たり1円)
 - ・新株予約権の行使期間 平成29年11月21日から平成59年11月20日まで
 - ・新株予約権の行使の条件 各新株予約権の一部行使はできないこととする。
 - ・その他の条件については、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した株式報酬型ストック・オプション「第8回新株予約権」割当契約書に定めたところによる。

・当社役員の保有状況

	新株予約権の数	目的となる株式の種類及び数	保有者数
取締役 (監査等委員を除く)	426個	普通株式 42,600株	6名
取締役 (監査等委員)	47個	普通株式 4,700株	1名

(注) 監査等委員でない社外取締役の保有分はありません。

- ② 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に交付した新株予約権の状況
該当事項はありません。
- ③ その他の新株予約権等の状況
該当事項はありません。

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

- ・ 連結子会社の数 3社
- ・ 主要な連結子会社の名称 エトス株式会社
株式会社東京テレコムエンジニアリング
株式会社山栄テクノ

② 非連結子会社はありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社が存在しないため、該当事項はありません。

(3) 連結の範囲及び持分法の適用の範囲の変更に関する注記

連結の範囲の変更 平成30年1月に全株式を取得したことにより、株式会社山栄テクノを連結の範囲に含めております。

(4) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、株式会社東京テレコムエンジニアリング、株式会社山栄テクノの決算日は6月30日であります。連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の計算書類を作成し、連結決算日との間に生じた連結子会社間の重要な取引については連結上必要な調整を行っております。その他の連結子会社の決算日は、連結会計年度と一致しております。なお、平成30年1月31日を取得日として、連結子会社化したしました株式会社山栄テクノは、決算期を9月30日から6月30日に変更しております。

(5) 会計方針に関する事項

① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他の有価証券

時価のあるもの

期末決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

② 重要な資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

未成工事支出金……個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）

不動産事業等支出金……個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）

販売用不動産……個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）

③ デリバティブ

時価法

④ 重要な固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……………定率法

(リース資産除く) 但し、茨城工場、OLY及び平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法

また、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備、構築物については定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物・構築物 : 7年~38年

工具器具・備品 : 2年~13年

無形固定資産……………定額法

(リース資産除く) なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年間)に基づいております。

リース資産……………所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

⑤ 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金…債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 賞与引当金…従業員の賞与支給に備えるため、翌連結会計年度における支給見込額のうち、当連結会計年度負担分を計上しております。

ハ. 工事損失引当金…受注工事の損失発生に備えるため、当連結会計年度末の手持受注工事のうち、損失発生の可能性が高く、かつ、その金額を合理的に見積ることが可能な工事について、損失見込額を計上しております。

ニ. 完成工事補償引当金…引渡しのできた工事の補償等の費用発生に備えるため、当連結会計年度の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。

⑥ 収益及び費用の計上基準 完成工事高の計上基準

イ. 当連結会計年度までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事
工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

ロ. その他の工事
工事完成基準

- ⑦ のれんの償却方法及び のれんの償却については、効果の発現する期間を合理的償却期間に見積り、当該期間にわたり均等償却しております。
- ⑧ ヘッジ会計の方法
- イ. ヘッジ会計の方法
- 金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。
- ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象
- ヘッジ手段…金利スワップ
ヘッジ対象…借入金
- ハ. ヘッジ方針
- 当社は金融機関からの借入金の一部について、金利変動によるリスクを回避するため、金利スワップ取引を利用しております。
- ニ. ヘッジの有効性評価の方法
- 金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。
- ⑨ その他連結計算書類の
- イ. 退職給付に係る会計処理の方法
作成のための重要な事項
退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に退職給付に係る期末自己要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- ロ. 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、流動負債の「その他」に含めて表示しておりました「未払法人税等」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。なお、前連結会計年度の「未払法人税等」は、29,410千円であります。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度まで、不動産賃貸に関わる受取賃貸料等及び賃貸収入原価をそれぞれ営業外収益の「不動産賃貸料等」（前連結会計年度72,821千円）及び営業外費用の「不動産賃貸原価」（前連結会計年度35,059千円）に計上しておりましたが、不動産賃貸物件の増加に伴い、当連結会計年度より受取賃貸料等を売上高に、賃貸収入原価を売上原価に計上する方法に変更いたしました。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

現金及び預金	50,000千円
販売用不動産	992,483
建物	371,519
土地	349,771
計	1,763,774

上記に対応する債務は次のとおりであります。

短期借入金	168,869千円
長期借入金	1,159,331千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 332,882千円

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末
普通株式	14,848,429株	—	—	14,848,429株

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年10月27日 定時株主総会	普通株式	29,677	2	平成29年 7月31日	平成29年 10月30日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当の 原資	配当金の 総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年 10月26日 定時株主総会	普通株式	利益 剰余金	74,176	5	平成30年 7月31日	平成30年 10月29日

(3) 当連結会計年度末日における新株予約権に関する事項

	平成25年 10月25日 取締役会決議	平成26年 10月29日 取締役会決議	平成27年 10月27日 取締役会決議	平成29年 10月27日 取締役会決議
目的となる 株式の種類	普通株式	普通株式	普通株式	普通株式
目的となる 株式の数	9,460株 新株予約権1個につき 10株	27,520株 新株予約権1個につき 10株	25,970株 新株予約権1個につき 10株	47,300株 新株予約権1個につき 100株
新株予約権の 残高	946個	2,752個	2,597個	473個

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に関する取組指針

当社グループは、設備投資計画等に照らして、必要な資金（主に増資や銀行借入）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、他に事業遂行上必要に応じ貸付けも行っております。また、短期的な運転資金は銀行借入により調達しております。また、デリバティブ取引については、ヘッジ会計の要件を満たしている等、実需の範囲内で行うこととしております。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等については、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である工事未払金は、そのほとんどが2ヵ月以内の支払期日であります。短期借入金及び長期借入金については、流動性のリスクに晒されておりますが、当該リスクについては、資金計画を作成し定期的に更新することにより管理しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
① 現金預金	1,660,639	1,660,639	—
② 受取手形・完成工事未収入金等	1,087,601	1,087,601	—
③ 固定化営業債権	337,402		
貸倒引当金 ※1	△ 337,402		
	—	—	—
資産計	2,748,240	2,748,240	—
① 工事未払金	418,530	418,530	—
② 短期借入金	25,000	25,000	—
③ 長期借入金 ※2	1,496,661	1,510,497	13,835
④ 長期未払金 ※3	258,432	257,442	△ 989
負債計	2,198,624	2,211,470	12,846
デリバティブ取引	—	—	—

※1. 固定化営業債権につきましては、個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

2. 長期借入金は、1年内返済予定分を含めて表示しております。

3. 長期未払金は、1年内返済予定分を含めて表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

① 現金及び預金、② 受取手形・完成工事未収入金等

これらは、短期間で決済するものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

③ 固定化営業債権

固定化営業債権については、担保及び保証による回収見込み額等に基づいて貸倒引当金を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表計上額から現在の貸倒見積高を控除した金額と近似しており、当該帳簿価額によっております。

負債

① 工事未払金

工事未払金については、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

② 短期借入金

短期借入金については、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

③ 長期借入金、④ 長期未払金

これらの時価については、元利金の合計額を残存期間及び信用リスクを加味した利率で割引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて処理しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

6. 賃貸等不動産に関する注記

(1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社は、不動産事業の一環として不動産の賃貸業を行っており、賃貸用不動産（土地を含む）等を保有しております。

(2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

連結貸借対照表計上額	時価
985,614千円	1,035,701千円

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得価額から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む）であります。

7. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	252円05銭
1株当たり当期純利益	17円58銭

8. 重要な後発事象に関する注記

(株式取得による会社等の買収)

当社は、平成30年8月3日開催の取締役会において、井口建設株式会社の全株式を株式譲渡契約（停止条件付）を締結して取得し、子会社化することについて決議いたしました。

なお、同社は現在「土木工事業及び不動産事業」の二つの事業を行っておりますが、今回の株式譲渡に伴い、同社から不動産事業を切り離して別会社とする会社分割を予定しており、今回、当社が取得する法人は、会社分割後の土木工事業を主体とした事業会社であります。

また、今回の株式譲渡契約は、当該会社分割が有効に成立した後に、当社が会社分割後の井口建設株式会社の株式を取得するという「会社分割の効力発生を停止条件にした株式譲渡契約」であります。

(1) 株式取得の目的

今回の株式の取得（子会社化）は、当社グループの収益力向上、事業基盤の拡大化という戦略をさらに推進するために実施するものであります。

(2) 株式取得の相手先の名称

白木良雄、白木律子

(3) 買収する相手会社の名称、事業の内容、規模

① 被取得企業の名称	井口建設株式会社
② 事業の内容	土木工事業、宅地建物取引業
③ 資本金の額	30,000千円（平成30年5月期）

(4) 株式取得の時期

平成30年9月25日（予定）

(5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

① 取得する株式の数	60,000株
② 取得価額	231,000千円
③ 取得後の持分比率	100%

(6) 支払資金の調達方法及び支払方法

金融機関からの借入

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

イ. 子会社株式

移動平均法による原価法

ロ. その他の有価証券

時価のあるもの

期末決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

未成工事支出金……個別法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

不動産事業等支出金……個別法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

販売用不動産……個別法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

③ デリバティブ

時価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……定率法

(リース資産除く) 但し、茨城工場、OLY及び平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法

また、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備、構築物については定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物・構築物 : 7年~38年

工具器具・備品 : 2年~13年

無形固定資産……定額法

(リース資産除く) なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年間)に基づいております。

リース資産……所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金…債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金…従業員の賞与支給に備えるため、翌事業年度における支給見込額のうち、当事業年度負担分を計上しております。
- ③ 工事損失引当金…受注工事の損失発生に備えるため、当事業年度末の手持受注工事のうち、損失発生の可能性が高く、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能な工事について、損失見込額を計上しております。
- ④ 完成工事補償引当金…引渡しの完了した工事の補償等の費用発生に備えるため、当事業年度の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。
- ⑤ 退職給付引当金…従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務を計上しております。なお、退職給付引当金の対象従業員が300名未満でありますので、簡便法によっており、退職給付債務の金額は当事業年度末要支給額（退職年金制度により支給される部分を除く）としております。

(4) 収益及び費用の計上基準 完成工事高の計上基準

- ① 当事業年度までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
- ② その他の工事
工事完成基準

(5) ヘッジ会計の方法

- ① ヘッジ会計の方法
金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。
- ② ヘッジ手段とヘッジ対象
ヘッジ手段…金利スワップ
ヘッジ対象…借入金
- ③ ヘッジ方針
当社は金融機関からの借入金の一部について、金利変動によるリスクを回避するため、金利スワップ取引を利用しております。
- ④ ヘッジの有効性評価の方法
金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。

- (6) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(損益計算書)

前事業年度まで、不動産賃貸に関わる受取賃貸料等及び賃貸収入原価をそれぞれ営業外収益の「不動産賃貸料等」(前事業年度72,821千円)及び営業外費用の「不動産賃貸原価」(前事業年度35,059千円)に計上しておりましたが、不動産賃貸物件の増加に伴い、当事業年度より受取賃貸料等を売上高に、賃貸収入原価を売上原価に計上する方法に変更いたしました。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保資産及び担保付債務

現金及び預金	50,000千円
販売用不動産	992,483
建物	371,519
土地	349,771
計	1,763,774

上記に対応する債務は次のとおりであります。

短期借入金	168,869千円
(短期借入金及び1年以内に返済する予定の長期借入金)	
長期借入金	1,159,331千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額

	284,725千円
--	-----------

(3) 保証債務

次の関係会社について、金融機関からの借入及びリース会社からのリース債務残高に対し、債務保証を行っております。

エトス株式会社	17,668千円
計	17,668千円

(4) 関係会社に対する金銭債権・債務

短期金銭債権	314千円
--------	-------

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引による取引高

売上高	598千円
-----	-------

営業取引以外の取引による取引高

営業外収益	12千円
-------	------

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末
普通株式	9,647株	3,430株	—	13,077株

(注) 普通株式の自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

貸倒引当金損金算入限度超過額	200,607千円
繰越欠損金	180,313
減損損失	159,301
賞与引当金	15,779
子会社株式評価損	12,879
たな卸資産評価損	12,700
新株予約権	9,045
その他	15,296
繰延税金資産小計	605,923
評価性引当額	△543,123
繰延税金資産合計	62,800
繰延税金負債	
前払年金費用	△ 1,825
繰延税金負債合計	△ 1,825
繰延税金資産の純額	60,974

7. リースにより使用する固定資産に関する注記

該当事項はありません。

8. 持分法損益等に関する注記

該当事項はありません。

9. 関連当事者との取引に関する注記

重要性が乏しいため記載を省略しております。

10. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	252円92銭
1株当たり当期純利益	14円17銭

11. 重要な後発事象に関する注記

当社は、平成30年8月3日開催の取締役会において、井口建設株式会社の全株式を株式譲渡契約（停止条件付）を締結して取得し、子会社化することについて決議いたしました。

なお、詳細につきましては、「連結計算書類 連結注記表 8. 重要な後発事象に関する注記」に記載のとおりであります。